

【問い合わせ先】

青森海上保安部

交通課長 笠原

Tel017-734-2422



令和4年1月14日
青森海上保安部

令和3年における海難発生状況について（速報値）

青森海上保安部管内

船舶海難は12隻（前年から1隻減）発生し、うち死者・行方不明者は0人（前年から2人減）でした。

人身海難は27人（前年から10人減）発生し、うち死者・行方不明者は13人（前年から5人減）でした。

青森県内

船舶海難は28隻（前年から3隻増）発生し、うち死者・行方不明者は0人（前年から15人減※）でした。

人身海難は59人（前年から1人減）発生し、うち死者・行方不明者は28人（前年から3人増）でした。

※ 令和2年は八戸海上保安部管内で発生した漁船と外国籍貨物船との衝突海難により13人が行方不明となり、死者・行方不明者が15名と増加していたもの。

<船舶海難及び人身海難過去5年間の推移>

青森海上保安部管内		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
船舶	船舶海難隻数（隻）	18	16	13	13	12
	死者・行方不明者数	4	0	1	2	0
人身	人身海難人数（人）	41	30	42	37	27
	死者・行方不明者数	13	11	18	18	13

青森県内		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
船舶	船舶海難隻数（隻）	25	24	24	25	28
	死者・行方不明者数（人）	5	0	1	15	0
人身	人身海難人数（人）	66	49	66	60	59
	死者・行方不明者数（人）	20	18	27	25	28

【船舶海難の特徴】

青森海上保安部管内では、船舶用途別で見ると漁船7隻（前年比-1隻）、プレジャーボート5隻（前年比±0隻）となっており、ほぼ例年どおりの発生状況となっています。

【人身海難の特徴】

青森海上保安部管内では、漁船による人身海難が6人（前年比-10人）と大幅に減少しており、特にローラーへの巻き込まれ等による負傷が1人（前年比-8人）と激減しています。

一方、マリンレジャーに伴う海浜事故では、釣り中の海難が7人（前年比+3人）と過去5年では最多となりました。これは、コロナ禍により釣り人が増えたことが要因の一つと考えられます。

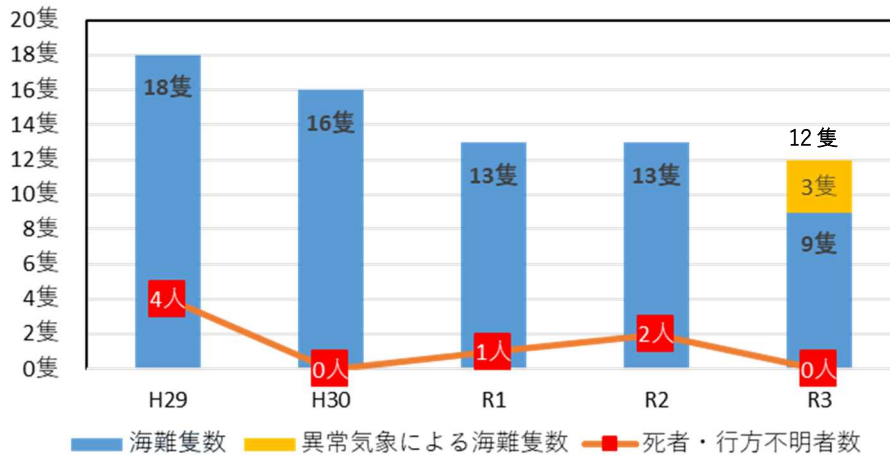
令和3年 青森海上保安部管内における海難発生状況

1 船舶海難の特徴

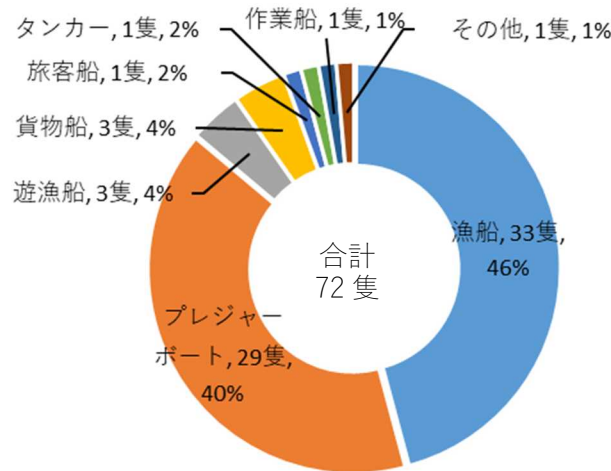
(1) 船舶海難（全体）

- ▶ 台風等異常気象による海難を除き、令和3年は前年比4隻減の9隻と大幅に減少し、近年においても減少傾向にある。なお、異常気象による令和3年の船舶海難は、台風9号により大畑漁港内大畑川河口付近に係留中の3隻が、大雨による急激な水位上昇により転覆に至ったもの。
- ▶ 船舶種類別にみると、漁船海難がもっとも多く全体の約46%（33隻／72）を占め、次いでPBが約40%（29隻）を占める。（5年間累計）

〔船舶海難の発生状況と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



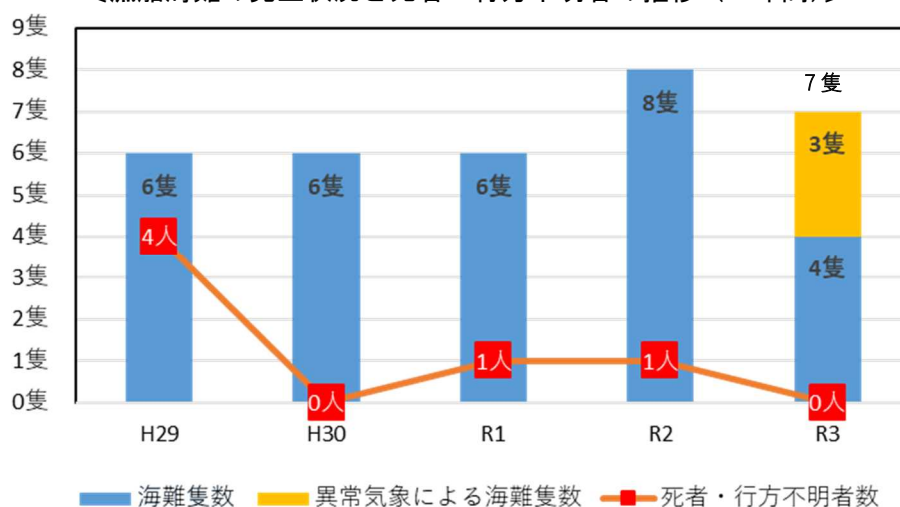
〔船舶種類別の割合（5年間累計）〕



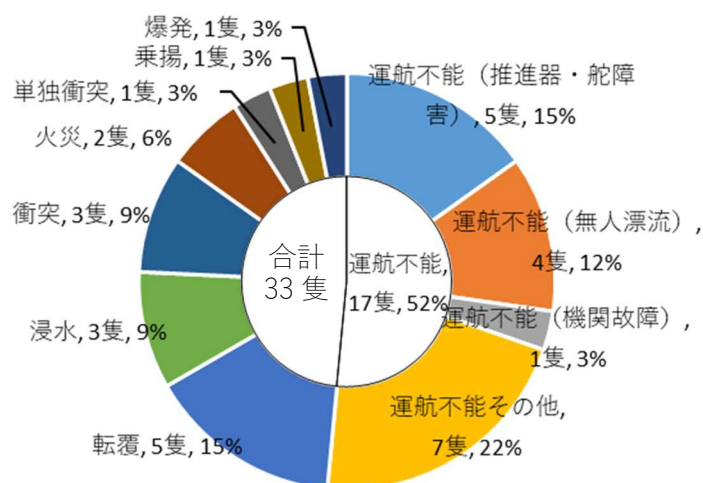
(2) 漁船海難

- ▶ 台風等異常気象による海難を除き、令和3年は前年比4隻減の4隻と大幅に減少。なお、異常気象による令和3年の船舶海難は、台風9号により大畑漁港内大畑川河口付近に係留中の3隻が、大雨による急激な水位上昇により転覆に至ったもの。
- ▶ 海難種類別にみると、推進機障害や無人漂流等の運航不能海難がもっとも多く全体の約52%（17隻／33）を占め、次いで転覆海難が約15%（5隻）を占める。（5年間累計）

〔漁船海難の発生状況と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



〔海難種類別の割合（5年間累計）〕

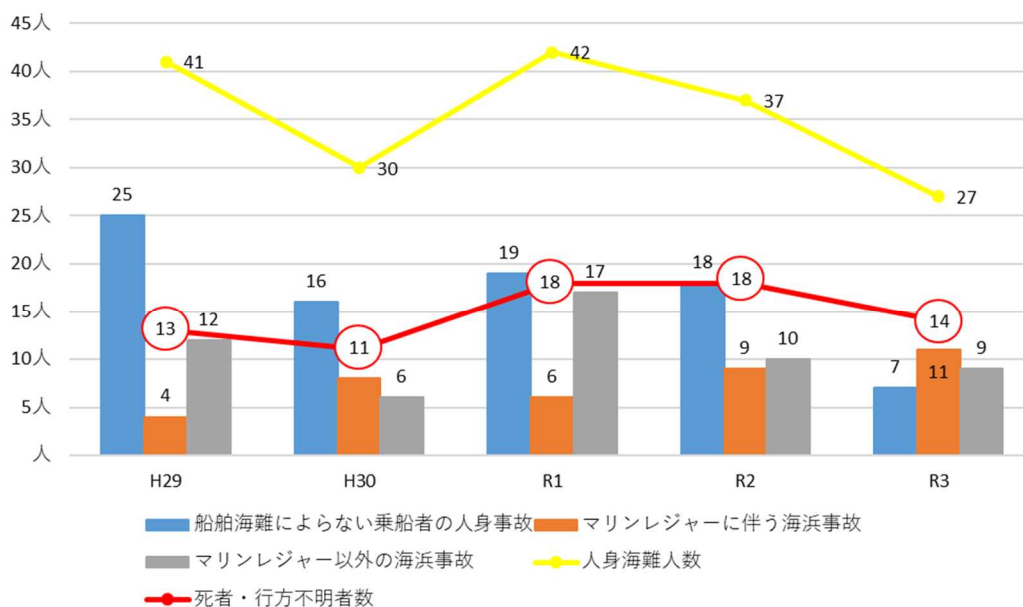


2 人身海難の特徴

(1) 人身海難（全体）

- ▶ 令和3年は前年比10人減の27人と大幅に減少し、近年において最少であり、減少傾向で推移。
- ▶ 船舶海難によらない乗船者の人身事故は、前年比11人減の7人と大幅に減少し、近年において最少。
- ▶ 他方、マリレジャーに伴う海浜事故は前年比2人増の11人と増加し、近年においては最多であり、増加傾向で推移。これは新型コロナウイルスの流行に伴い、釣りが盛んになったためと推測される。
- ▶ 令和3年の死者・行方不明者は、前年比4人減の14人に減少。

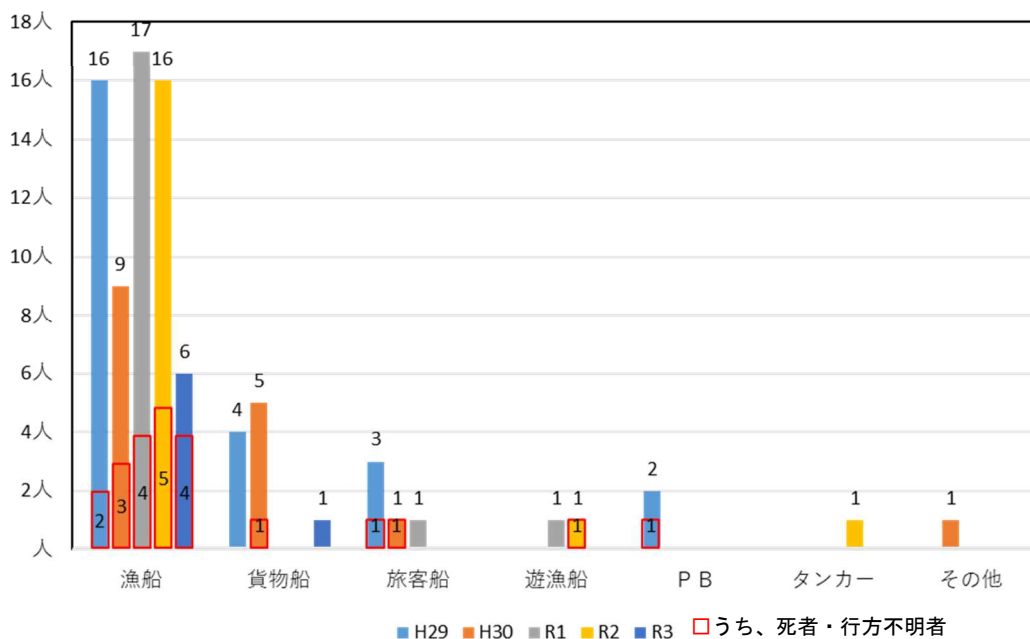
〔人身海難の発生状況と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



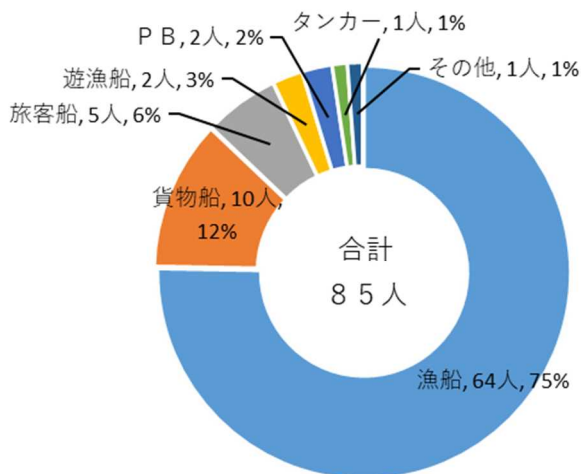
(2) 船舶海難によらない乗船者の人身事故

- ▶ 船舶種類別にみると、漁船による海難が突出して多く、全体の約75%（64人／85）を占める。（5年間累計）
- ▶ 令和3年の漁船による海難は、前年比10人減の6人と大幅に減少し、近年において最少。
- ▶ 令和3年の漁船による死者・行方不明者は、前年比1人減の4人と減少したものの、近年においてはほぼ横ばいで推移。

〔船舶種類別と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



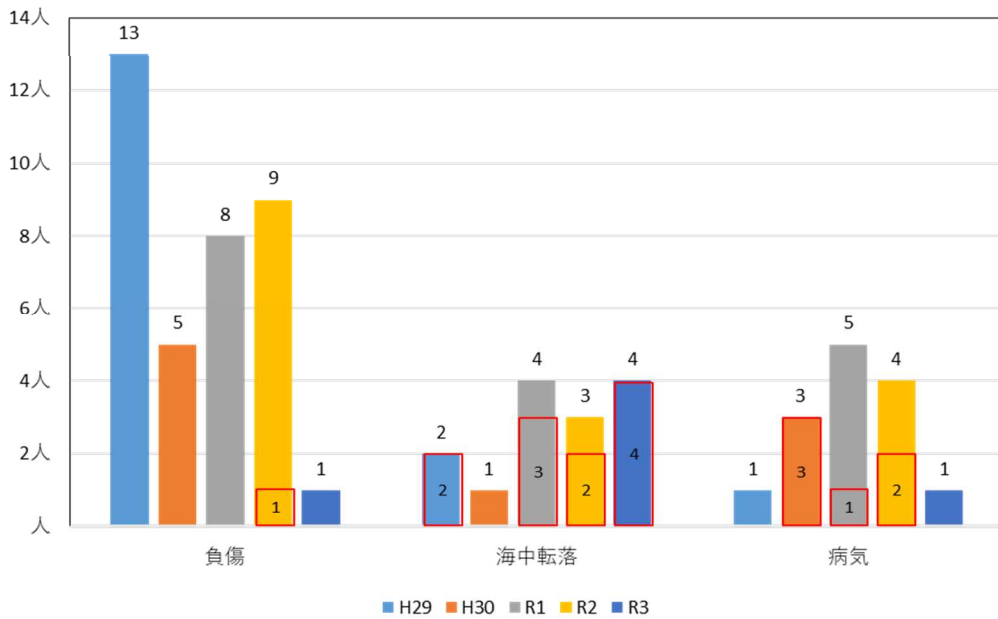
〔船舶種類別の割合（5年間累計）〕



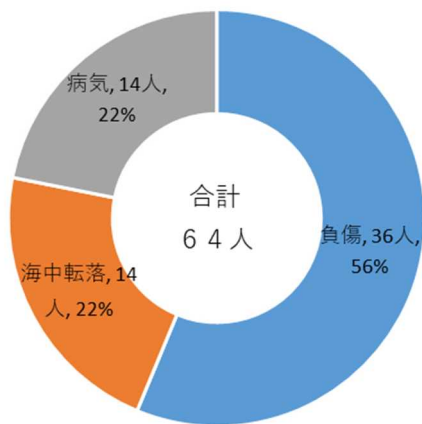
○ 漁 船

- ▶ 海難種類別にみると、巻き込まれ等の負傷によるものが最も多く、全体の約56%（36人／64）を占め、次いで海中転落及び病気によるものがそれぞれ約22%（14人）と続く。（5年間累計）

〔漁船による人身海難の種類と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



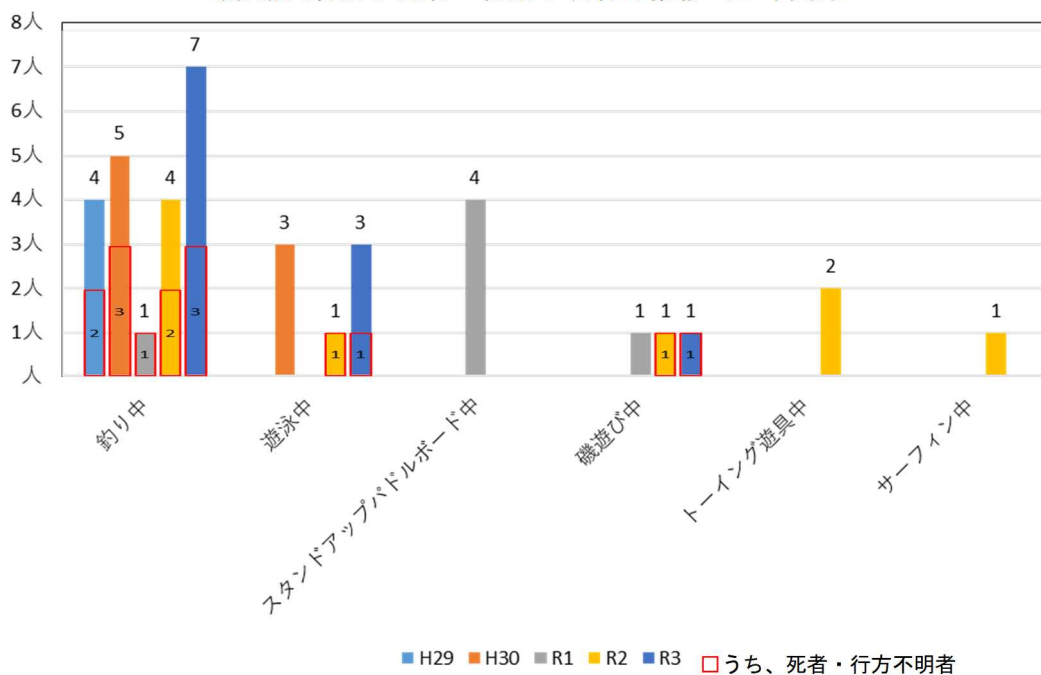
〔漁船による人身海難の種類別の割合（5年間累計）〕



(3) マリレに伴う海浜事故

- ▶ 活動内容別にみると、釣り中の人身海難が突出して多く、全体の約55%（21人／38）を占め、次いで遊泳中の人身海難が約18%（7人）と続く。（5年間累計）
- ▶ 釣り中の人身海難は、昨年比3人増の7人と増加し、近年においては最多。
- ▶ 死者・行方不明者を伴う釣り中の人身海難は、毎年発生している。

〔活動内容別と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



〔活動内容別の割合（5年間累計）〕

